独立行政法人国際協力機構
青年海外協力隊事務局
2025年10月1日

式典参加者全員での集合写真

フィリピンへの協力隊派遣 60周年記念式典が行われました！

国際協力機構JICAのボランティア事業である「JICA海外協力隊」は、今年派遣60周年を迎えました。フィリピン・マニラでは、2025年8月28日に60周年記念式典が開催され、フィリピンと日本の間で築かれてきた60年にわたる草の根的な協力と友情が称えられました。

1965年の開始以来、このJICAボランティア事業は世界99か国に約58,000名の隊員を派遣してきました。フィリピンへの初派遣は翌年1996年2月のことであり、12名の隊員がルソン島北部を中心に派遣されました。それ以来、派遣はフィリピン全国に広がりをみせ、これまでに1,700名以上の隊員がフィリピンに派遣されてきました。

60周年記念式典は、在フィリピン日本国大使公邸で開催され、小渕優子会長をはじめとするJICA議員連盟の議員ご一行、フィリピン国の議員の皆様や政府関係者、現役フィリピン隊員、隊員のカウンターパートなど、多くの来賓が出席しました。遠藤和也在フィリピン日本国大使は、開会挨拶の中で、隊員の献身的な活動がフィリピンの社会発展に大きく貢献し信頼関係を構築してきたこと、来年は日本とフィリピンの国交正常化 70 周年であり、このような繋がりが日比友好関係の礎であること、そして、歴代隊員の活動とフィリピン側の継続的かつ温かいサポートへの感謝を述べました。

遠藤大使が関係者と挨拶を交わす様子

日比議員連盟会長のミゲル・ズビリ上院議員の祝辞では、JICAの協力は、防災や農業、公共インフラなど、私たちの暮らしに欠かせない分野で大きな変化をもたらしてきた中でも、最も尊いのは、協力隊の隊員による人と人との交流であり、これまでの隊員が残した功績に対して謝意が述べられました。

カルロス・サントス経済企画開発省次官の祝辞では、歴代の隊員が、JICAとフィリピン国家ボランティアサービス調整局（PNVSCA）の緊密な協力の下、主に教育、医療、農業、環境などの他分野で活躍し、フィリピンの人々の生活を向上させると共に両国の友情を育んできたことに触れ、その世代を超えた一人ひとりの貢献に対し、心からの謝意が示されました。

小渕会長の祝辞では、JICA議員連盟が協力隊員への激励や帰国後の支援など、継続的に支援していることを紹介し、自身も初当選以来、協力隊を応援してきた経験に触れました。また、多様な分野で活躍する隊員への敬と感謝を述べるとともに、フィリピン側の支援と理解に対して謝意を示し、協力隊の活動が国際社会の課題解決に貢献する力になると期待を込め、今後も継続的に支援していく旨が述べられました。

小渕会長が祝辞を述べる様子

JICAフィリピン事務所の馬場隆所長は、ボランティアを「草の根大使」と表現し、「地域社会と情熱をもって共に働くことが、教室での授業、畑の耕作、診療所の支援、地域プロジェクトの強化といったすべての活動の原動力です」と述べました。また、60年にわたって築かれてきた信頼と友情についても触れ、フィリピンの「カプワ：kapwa（共感・共有の精神）」、無償の助け合いを意味する「バヤニハン：bayanihan」、そして日本の「助け合い：tasukeai」の精神が、この協力の根底にあると強調しました。

フィリピン事務所・馬場所長と
ズビリ上院議員が握手をする様子

ベンゲット州ラ・トリニダード町役場で活動する山本士温隊員（職種：防災・災害対策）は、60年にわたる成功の鍵は、ボランティアと地域社会との密接なつながりと、小さくても意味のある貢献にあると語りました。自身の地域との絆を感じるエピソードとして、防災活動を行う小学校のファミリーデイに招待され、校長先生から「あなたはこの学校の家族だ」と感謝の言葉を受け、活動が地域に受け入れられていることを実感したといいます。

山本隊員によるプレゼンテーションの様子

最後に閉会挨拶として、大場雄一理事より、関係者による長年の協力と多大な支援に感謝を表明しました。そして、協力隊派遣 60 周年のテーマ「世界と日本を変える力」の下、発足当初からの現地に根差した協力の姿勢や人と人とのつながりを重視した日本らしい ODA の象徴である本事業を継続していくこと、同時に未来の日本を支える人材育成にも貢献していくこと、今後は「共創・革新・環流」をキーワードに、世界の課題に対応する事業価値の向上に取り組むことを共有し、一体感の下で式典を閉会しました。

大場理事が閉会の挨拶を述べる様子

この節目の式典では、フィリピンにおけるJICAボランティア事業の成果も振り返られました。地域に根ざした防災活動の先駆的な取り組みから、持続可能な農業の推進、包摂的な社会サービスの提供に至るまで、多岐にわたる貢献が紹介されました。フィリピンではボランティア事業やボランティアの活動が高く評価され、2016年には「アジアのノーベル賞」ともいわれる「ラモン・マグサイサイ賞」を受賞しました。本式典は、過去の功績を称えるだけでなく、フィリピンと日本の人と人との協力関係を築く上で、JICAボランティア事業が今後も果たしていく重要な役割を再確認する場ともなりました。

フィリピンJICA海外協力隊、JICA議員連盟、フィリピン側出席者との集合写真